



## いいとこ取りのナス新品種を開発！

－多収性で漬物にも向く単為結果性とげなしナス－

### 開発の背景・ニーズ

現在、県内の促成作型<sup>※1</sup>の主要品種は「千両」と「とげなし輝楽」です。「千両」は多収性と、煮ても焼いても漬物にしても美味しい点が評価されてきました。一方で、単為結果性<sup>※2</sup>を持たず、茎、葉、へタにとげがあるため、作業性に問題がありました。

「とげなし輝楽」は単為結果性及びとげなし性を持つため作業性が良いものの、収量がやや少なく、また、果皮が硬いことから漬物加工需要に応えることができません。

そこで、漬物加工にも向く、多収性の単為結果性とげなしナス品種の開発に取り組みました。

※1 ハウス内で栽培し、10月から翌年7月にかけて出荷します。

※2 受粉や着果促進剤の処理をしなくても果実が肥大する性質です。

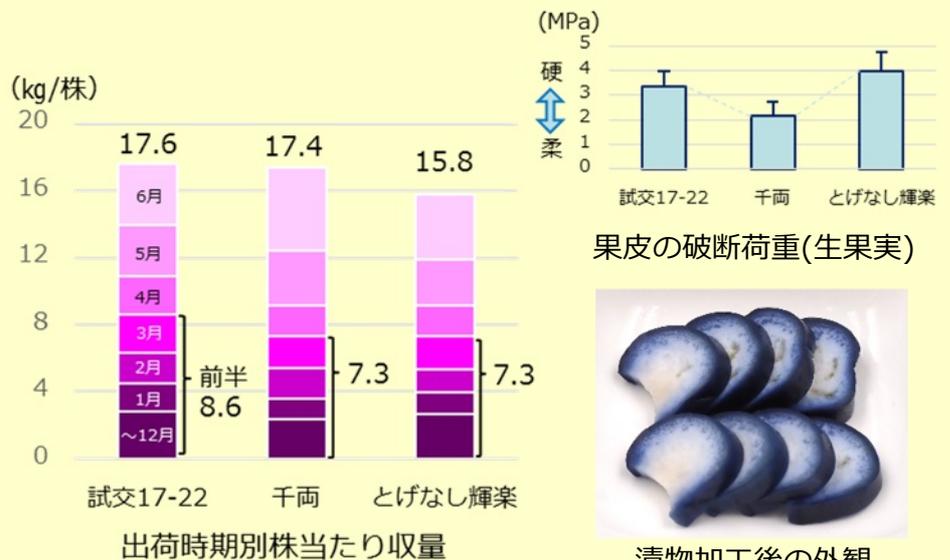
### 成果の内容

開発したナス新品種「試交17-22」の果実は長卵形で、果皮は光沢のある黒紫色です。単為結果性及びとげなし性を持つため、生産者は省力的かつ快適に栽培することができます。収量は「とげなし輝楽」と比較して多く、「千両」と同程度であり、特に3月までの栽培前半が多収です。果皮の破断荷重(柔らかさ)は「千両」と「とげなし輝楽」の中間で、漬物加工後の食味評価は「千両」と同等で「とげなし輝楽」より優れます。

本品種は、生産現場からの高い評価を得て、2021年11月に品種登録出願を行い、農林水産省から2022年3月に出願公表されました。



「試交17-22」の果実



果皮の破断荷重(生果実)



漬物加工後の外観

### 愛知県農業への貢献

本品種を「千両」産地へ導入した場合、収量を維持しつつ、単為結果性及びとげなし性により栽培管理の省力化及び快適化が見込め、高齢化の進む産地の維持発展が可能となります。また、量販店需要に加えて漬物加工の需要にも応えられるため販路の維持・拡大が期待されます。2023年度から本格栽培を開始し、2028年度に県内の「千両」栽培面積である18.5haでの栽培を目標としています。